

令和7年度秋田県放課後児童支援員等認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

<県央会場>

科目 ⑥障がいのあるこどもの理解

- ◆ 特別支援教育に携わる講師の講義内容から、障がいのある子どもを理解するための基礎、保護者や関係機関との連携の必要性、子どもと保護者を理解するための継続的な学習の必要性について学び、理解することができた。また、知的障がいだけでなく、発達障がいやその圏域の子どもの特性理解や支援の在り方を再確認できた。常に一人ひとりの教育的ニーズを把握して必要な支援を行うことが重要であると考えさせられた。
- ◆ 今回の研修を通じて、障がいのある子どもへの理解と支援の在り方について改めて深く考える機会となった。障がいのある子どもは一人ひとり異なる特性や背景をもっており、その行動の裏には必ず理由や気持ちがあることから、子ども自身が安心して過ごせる環境を整え、その子の特性にあった関わり方を工夫することが支援の第一歩であると感じた。また、困難さに目を向けるだけでなく、子どもの可能性や強みを見出し伸ばしていく姿勢が重要であることにも気付かせていただいた。
- ◆ 「障がい」の捉え方、様々な障がいの種類と支援の方法について学びました。「障がい」といっても、身体的障がい、知的障がい、発達障がいと多岐にわたり、支援することの難しさを感じました。特別扱いをする、全部やってあげるではなく、どうすれば本人ができるようになるのかを考え、個人個人に対応していくことが「支援」なのだと思います。障がいの有無に関わらず、その子の得意を伸ばせるような支援ができるように、子ども・保護者・職員の信頼関係を築き、一人ひとりに寄り添った対応に関わる大人全員で考えていけたらと思いました。
- ◆ 特別支援教育では、生活や作業を通じ自信や対人経験を育み、障がいがあっても一人のかけがえのない存在として尊重されることは当たり前という意識をもつべきと再認識した。また、身体の制約や病気による経験の偏りを補うため、適切な姿勢や補助具、活動量の工夫が重要であること、子どもが自身の病気や体の状態を理解し、不安に向き合えるよう支援し、感覚や記憶、コミュニケーションの特性を踏まえて、学びや参加を支える環境作りが求められることも学んだ。
- ◆ 様々な障がいの特性を理解し、具体的に援助していく方法について理解を深めることができた。特に自閉症スペクトラム症(ASD)について、得意なことを伸ばしていくこと、安心して過ごせる環境作りが大切であることを学んだ。保護者との関係作りでは、職員間で方向性を一致させ、一人ひとりの子どもに向き合い、成長を丁寧に伝えていきたいと思う。